資料９

平成 30 年

佐倉市総合計画策定のための
高校生によるまちづくり
ワークショップ報告書

平成 30 年８月
佐倉市

【 はじめに 】

佐倉市は、昭和 49 年度の第 1 次佐倉市総合計画策定以来、歴史、自然、文化に恵まれた地域性に重きを置きながら、まちづくりに尽力してきました。平成 23 年度に開始した第 4 次佐倉市総合計画において、佐倉市は、『歴史　自然　文化のまち　～「佐倉」への思いをかたちに～』を将来都市像に掲げ、市民一人ひとりの「佐倉への思い」がかたちになるような取組を進めています。

平成 32 年度からの第 5 次佐倉市総合計画を策定していくにあたり、第 4 次佐倉市総合計画の期間で市民の意識がどのように変遷し、今後まちづくりにおいて行政が担うべき役割をあらためて問い直す必要があります。

そのため、「市民にとっての幸せとは何か」、「市民と行政はそのために何をすべきなのか」を市民とともに考え、市政に活かしていくことを目的に市民意見交換会を開催しました。

■実施日

平成 30 年 8 月 10 日（金）

■会場

佐倉市役所議会棟 3 階

■高校生によるまちづくりワークショップの内容

参加いただいた佐倉高校、佐倉東高校、佐倉西高校、佐倉南高校の生徒（23 名）を 3 グループに分け、「幸せとは何か、そのために何をすればいいか」というテーマに沿って、以下の内容・進行で話しあいを行いました。

テーマ	内　容
幸せについての意見交換	① 開会
	② 担当課あいさつ（市の状況説明）
	③ ワークショップの進行説明
	④ 自己紹介 1.佐倉市のよさ 2.10 年後はどこに住んでいると思うか
	⑤ カード記入 「自分の幸せ、家族の幸せについて」
	⑥ カード読み上げ、カード並べ（グループ化）、自由討論
幸せを実現するためにすべきことについての意見交換	⑦ カード記入 「幸せを実現するために自分がすべきこと、自分以外の助けが必要なこと」
	⑧ カード読み上げ、カード並べ（グループ化）、自由討論
	⑨ 発表（１グループ５分×３グループ）
	⑩ まとめ、閉会あいさつ

【ワークショップの手法 】

参加いただいた皆様から可能な限りのご意見をいただくため、ワークショップ方式にて行いました。

■ ワークショップの基本的な流れ

① カード記入

与えられたテーマについて、自分の意見、思いをカード（付せん）に記入します。
記述された内容について、現在実現されていないことや、自分だけでは実現できないことについては目印をつけます。

② カード並べ

グループごとに、みんなが書いたカードを模造紙上に並べ、同じような内容のものを集めたり、全体の関係性を話し合ったりしながら、分類・とりまとめ方法を考えます。

③ 成果のとりまとめ

色マジックなどを活用しながら、分類したカード群に見出し（タイトル）をつけたり、補足説明を書いたりし、みんなの意見を模造紙上で整理し、とりまとめ、最後にグループごとに発表します。

【意見要旨】

A 班

全体として、友人関係や食事・趣味、コンビニや遊び場所など、個人の生活に根ざしたものを幸せとする意見が多く挙げられましたが、「いざというときに周りの人と助け合いができること」といった社会で実現すべき意見も見られました。また、本年の猛暑により「学校にエアコンが設置されていること」や、スマートフォンの社会的普及による「Wi-Fi などのスマートフォン環境がいいこと」など、社会的背景による意見も挙げられました。

また、それに対してすべきこととして挙げられたものの中では、印旛沼の環境整備においては、市民と行政の協働の視点が必要ではないかという意見が挙げられています。

カードに記入された意見（要旨） 太字は、同意見が複数見られ、内容を取りまとめたもの

■ 幸せや豊かさについて

1.人間関係

- **・友だちと遊ぶときや一緒にいるとき**
- **・いざというときに周りの人と助け合いができること**
- ・同じ目標を持つ仲間がいること

2.心身の健康や生活の豊かさ

- **・おいしいものを食べることや食が充実していること**
- **・趣味など好きなことをして過ごしているとき**
- **・健康であること**
- ・お金に困らないこと

3.環境や資源

- **・コンビニが充実していること**
- **・遊ぶ施設が充実していること**
- **・Wi-Fi などスマートフォン環境がいいこと**
- **・交通の便がいいこと**
- **・学校にエアコンが設置されていること**
- ・道路が歩きやすいこと
- **・自然や生きものと触れ合えること**
- ・緑化、自然環境がいいこと
- ・佐倉花火フェスタやサイクリングロード

■ 幸せや豊かさのために（自分自身）

- ・周囲の人々とコミュニケーションを取る
- ・体調管理や気分転換をする
- ・働いてお金を稼ぐ

■ 幸せや豊かさのために（行政）

- ・学校の空調設備を徹底してもらう
- ・道路整備をする
- ・遊べる施設を作ってもらう
- ・商業施設や店舗の誘致をしてもらう
- ・市民も協働して印旛沼の環境整備を進める

B班

全体として、友人関係や健康的な生活のほかに、学費や就労環境など経済的な豊かさを幸せとする意見が多く挙げられました。近年の企業就労環境に関する報道に対する不安の表れと考えられる「希望する仕事に就けることや労働環境がいいこと」という意見が見られました。

また、それに対してすべきこととして、学費支援や就労支援、健全な就労環境の整備についての意見が多く挙げられました。生涯にわたっての健康で安心な生活のために「高齢者向け施設の設置」や「防災対策や災害情報の発信」という具体的な視点も見られました。

カードに記入された意見（要旨）

太字は、同意見が複数見られ、内容を取りまとめたもの

■ 幸せや豊かさについて

1.人間関係

- **・友達がいること**
- ・同じ目標を持つ仲間がいること
- **・人間関係が良好であること**
- ・家族がお互いに理解しあっていること

2.心身の健康や生活の豊かさ

- **・お金に余裕があること**
- **・希望する仕事に就けることや労働環境がいいこと**
- **・学費の心配をせず進学できること**
- ・老後も安心して過ごせる施設があること
- **・おいしいものを食べられること**
- **・健康で安心な生活を送れること**
- **・家族で旅行に行けること**
- ・自由な時間を過ごせること

3.環境や資源

- **・治安がよく安全であること**
- **・遊べる場所、趣味を楽しめる場所があること**
- **・エアコンのある環境**
- **・コンビニ、商業施設が充実していること**
- **・交通の便がよいこと**

■ 幸せや豊かさのために（自分自身）

- ・就職活動をして働く、お金を貯める
- ・スケジュール管理をして時間を作る
- ・色々な人と話し合うことでお互いの理解を深める
- ・よりよい就職先や条件のいい企業のある地域に引っ越す
- ・普段から家族と会話や話し合いをする

■ 幸せや豊かさのために（行政）

- ・学費の支援や援助
- ・市民が楽しめる施設や場所の設営や情報提供
- ・高齢者向け施設の設置
- ・治安に関する取り締まりの強化
- ・エアコンの設置
- ・就職先の紹介など就職支援
- ・労働基準などの法整備、取り締まり
- ・防災対策や災害情報の発信
- ・不安のない暮らしができるような環境づくり
- ・利用しやすい相談センターの活用

C班

全体として、他の班と同様、友人関係や健康的な生活のほかに、就労環境など経済的な豊かさを幸せとする意見が多く挙げられました。また、「平和が当たり前の生活を送れること」や「戦争がないこと」など、近年の国際情勢の影響の表れと考えられる意見も見られました。

また、それに対してすべきこととしては、「お互いが助け合える仕組みづくり」や「自分の住むまちについて、もっと知ることができるような取組」、「地域のコミュニケーションを図れるようなイベントの開催」などコミュニティ強化の視点の強いものが多く挙げられました。

カードに記入された意見（要旨）

太字は、同意見が複数見られ、内容を取りまとめたもの

■ 幸せや豊かさについて

1.人間関係

- **友達がいること**
- **家族が一緒に過ごせること**
- **ケンカやトラブルがなく円満に生活できること**

2.心身の健康や生活の豊かさ

- **趣味の時間**
- **おいしいものを食べられること**
- **十分な睡眠を得られ健康であること**
- **希望する仕事に就けること**
- **お金に困らないこと**

3.環境や資源

- 安全で安定した生活を送れること
- 平和が当たり前の生活を送れること
- エアコンのある、快適な環境で勉強ができること
- 戦争がないこと

■ 幸せや豊かさのために（自分自身）

- 将来のために勉強し、見識を広める
- 積極的に他人と交流し、相手を尊重する
- お金を貯めることや稼ぐこと
- 早寝早起きなどの健康習慣をつけ、栄養バランスのよい食生活を送る
- 家族と過ごす時間を作る

■ 幸せや豊かさのために（行政）

- お互いが助け合える仕組みづくり
- 行政にもっと市民の声を活かすような取組
- 医療機関の充実すること
- 環境整備
- 自分の住むまちについて、もっと知ることができるような取組
- 教育の充実
- 防災対策の強化や災害情報の発信
- ブラック企業をなくすような取組
- 地域のコミュニケーションを図れるようなイベントの開催
- 核をなくすこと

【 総括 】

今回のワークショップに先立ち、昨年度実施した市民意識調査結果（アンケート）と平成 21 年度に実施した同調査の結果を比較分析しており、それによると、市民の意識に若干の都市化とも考えられる意識の変化が見られています。

たとえば、佐倉市の従来のイメージである歴史・文化・自然を魅力とする割合に若干の減少が見られ、その一方で、都市としての居住性の高さを魅力と考える割合に増加が見られました。また、ご近所づきあいについて、やや疎遠となっている傾向が見られました。

そうした意識の変化の可能性を踏まえ、今回のワークショップでは、新たな総合計画において何を達成していくべきかをあらためて整理・検討することを目的に、まちづくりの究極的な目標である「市民の幸せとは何か」、「その幸せの実現のために何をするべきか」について意見交換いただきました。

結果としては、就労や経済的な充足を幸福と考える意見や、若者にとって魅力的な施設が増えてほしいという要望など、将来や進路についての悩みや利便性の高い都市に憧れる高校生らしさが見られました。この一方で、地域のつながりを重視する意見も多く、佐倉市の若者が、居住性や便利さを向上させる都市機能の強化だけではなく、コミュニティの維持・強化など地域のつながりも重視していることがわかります。

幸せや豊かさを実現するために「自分自身（や家族）で対応していくこと」と「行政が対応していくこと」についての意見においては、市民と行政それぞれに同内容が書かれているものも多々見られ、まちづくりは市民だけでも行政だけでもない、協働で取組むべきものということがあらためて認識されます。今後、市民と行政の間の情報共有・役割分担をさらに推進し、協働のまちづくりに取組む必要性がうかがえました。